

第1章 計画の概要

第2章 現状把握

第3章 前回計画の検証

第4章 国の方向性と本市の課題

第5章 基本計画

第6章 具体的な取組

第7章 自転車ネットワーク計画

第8章 推進体制

資料編

1 前回計画と国の計画との関連性

「大分市自転車活用推進計画」と国の「第2次自転車活用推進計画」の関連性について、下図に示します。

■前回計画と国の計画(第2次)との関連性

大分市自転車活用推進計画	目標1			目標2		目標3		目標4		
	自転車で便利で快適、きれいなまちおおいた	自転車で心と体が元気になるまちおおいた	自転車でたくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまちおおいた	自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちおおいた						
	1 空間づくり	2 安全で快適な自転車通行	3 駐輪環境	4 利用促進	5 情報発信等による自転車	6 地域振興の推進	7 推進	8 促進	9 啓発	10 の検討
【目標1】 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成	1 地方公共団体における計画策定・施策実施の促進									
	2 自転車通行空間の計画的な整備の推進	○								
	3 路外駐車場等の整備や違法駐車取締りの推進等					※違法駐車の取締りについては県警が所管				
	4 シェアサイクルの普及促進		○							
	5 地域の駐輪ニーズに応じた駐輪場の整備推進	○								
	6 情報通信技術の活用の推進		○							
	7 生活道路での通過交通の抑制や無電柱化と合わせた取組の実施	○								
【目標2】 サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現	8 国際規格に合致した自転車競技施設の整備促進									
	9 公道や公園等の活用による安全に自転車に乗れる環境の創出				○					
	10 自転車を利用した健康づくりに関する広報啓発の推進			○						
	11 自転車通勤等の促進		○							
【目標3】 サイクルツーリズムの推進による観光立国実現	12 國際会議や国際的なサイクリング大会等の誘致				○					
	13 走行環境整備や受入環境整備等による世界に誇るサイクリング環境の創出	○				○	○			
【目標4】 自転車事故のない安全で安心な社会の実現	14 高い安全性を備えた自転車の普及促進							○		
	15 多様な自転車の開発・普及の促進			○	○					
	16 自転車の点検整備を促進するための広報啓発等の促進							○		
	17 交通安全意識の向上に資する広報啓発活動の推進や指導・取締りの重点的な実施								○	
	18 学校等における交通安全教室の開催等の推進									○
	19 再掲（1に同じ）									
	20 再掲（2に同じ）	○								
	21 災害時における自転車の活用の推進									○
	22 傷害賠償責任保険等への加入促進							○		

○: 関連性が高い施策

2 年度別取組状況の整理

目標や施策の体系に基づいて取り組んだ事業内容について、年度ごとに整理しました。多くの事業は継続的に取り組んでいますが、事業内容の見直しや移行、新規取組等もあります。

■年度別取組状況の整理

目標	施策	事業内容	R2	R3	R4	R5	R6
目標1	①安全で快適な自転車通行空間づくり	自転車走行空間ネットワーク整備計画の推進					▶
		市営駐輪場の整備 附置義務による民間駐輪場の確保					▶
		自転車等放置禁止区域の指定					▶
		自転車等誘導整理業務					▶
		大分市自転車保管・返還所の管理運営					▶
	③交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり	防犯カメラの管理運営					▶
目標2	④情報発信等による自転車利用の促進	シェアサイクル普及促進事業					▶
		レンタサイクル事業					▶
		サイクリングアンドパスライド実証実験					▶
		電動アシスト自転車普及促進事業					▶
		「自転車が似合うまち おおいた」標語コンクールの実施					▶
	⑤サイクルスポーツの普及促進	健康づくり推進事業 高齢者運転免許自主返納促進事業 企業向け自転車利用促進事業					▶
目標3	⑥自転車を活かした観光・地域振興の推進	OITA サイクルフェスの実施					▶
		3SEEDS株式会社(「Sparkle Oita Racing Team(スパークルおおいた)」)との連携協定					▶
		ホームタウン推進事業(「Sparkle Oita Racing Team(スパークルおおいた)」)					▶
		サイクルロゲイニング等の実施に向けた検討			▶		
		サイクルトレインの実施に向けた検討			▶		▶
	⑦サイクルツーリズムの推進	サイクルツーリズム推進事業 西部海岸地区憩い・交流拠点施設整備事業 (道の駅たのうららへのサイクリング施設の整備) おおいたサイクルマップの充実					▶
目標4	⑧安全な自転車等の普及促進 ⑨自転車ルール・マナーの啓発	大分都市広域圏サイクリング大会開催に向けた検討	▶				
		大分都市広域圏サイクリング大会の開催	▶				▶
		自転車損害賠償責任保険の加入促進					▶
		自転車安全利用五則の周知					▶
		おでかけ自転車マナーアップ教室					▶
		子乗せ自転車安全講習会					▶
		キッズ自転車スクール					▶
		自転車マナーアップ推進モデル校の指定					▶
		一般向けマナーアップ事業					▶
		学校における交通安全教室の実施					▶
	⑩災害時の自転車活用方策の検討	自転車ヘルメット着用サポーター 自転車通学生のヘルメット着用の促進					▶
		災害発生時における放置自転車の活用 シェアサイクル普及促進事業【災害協定】					▶

3 数値目標の達成状況

前回計画の数値目標の達成状況を整理します。コロナ禍によるさまざまな制限があった中でも、各取組は目標に対しておおむね順調に取り組んでいます。

- ①自転車ネットワーク整備延長については、5年間で25kmとしています。年度ごとの平均5kmが目安となりますが、順調に整備が進められています。
- ②自転車イベントの観客と参加者の人数については、コロナ禍の影響により大幅な人数の減少となりましたが、サイクルフェス公式YouTube動画は多くの方々にご視聴頂きました。
- ③自転車ルール・マナー啓発活動の回数については、いずれの年も30回を超えており、目標に近い実績となっています。
- ④自転車事故の件数については、各年を通じて220件以下を達成しており、目標である年間220件以下の定着化が図られています。
- ⑤自転車を週1回以上利用する市民の割合については、29%とおおむね目標に近づいている状況にあります。

■数値目標の達成状況

設定項目	目標	実績					備考
		R2	R3	R4	R5	R6	
①自転車ネットワーク整備延長	25km (5年間)	7.755 km (7.755)	4.870 km (12.625)	9.489 km (22.114)	6.225 km (28.339)	3.655 km (31.994)	※5年間における整備実績目標 ※() 内は累計整備延長
②自転車イベントの観客と参加者の人数	73,000人 (年間)	-	2,994人	27,923人	44,477人	46,907人	※R2はコロナ禍により自粛要請
		37,062回	44,948回	40,559回	28,186回	43,367回	※サイクルフェス公式動画総再生回数（参考）
③自転車ルール・マナー啓発活動の回数	35回 (年間)	31回	34回	32回	37回	37回	
④自転車事故の件数	年間220件以下の定着化	218件	210件	201件	197件	198件	※事故件数は暦年による集計
⑤自転車を週1回以上利用する市民の割合（調査時点）	30% (R6)	-	-	-	-	29%	※令和6年大分市の自転車利用環境に関するアンケート調査（28.5%を四捨五入）

4 目標ごとの評価

目標 1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた



1. 安全で快適な自転車通行空間づくり

中心部及び郊外の高校や駅の周辺において、自転車の通行位置を示す自転車誘導サインの設置や、幹線道路の新設や拡幅に伴う自転車通行空間の整備が進むなど、自転車ネットワークの拡大に向けて取り組んでいます。

○自転車が走行しやすい環境の整備

■重要度

重要度	票数	割合
重要	358	72%
やや重要	98	20%
普通	34	7%
あまり重要でない	5	1%
重要でない	3	1%
わからない	19	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	9	2%
やや満足	38	9%
普通	164	40%
やや不満	89	22%
不満	110	27%
わからない	79	-

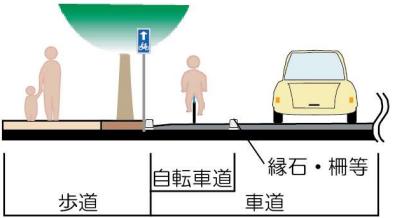
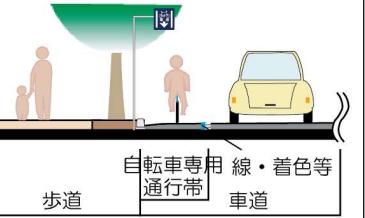
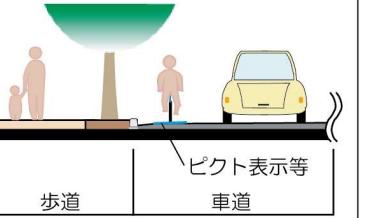
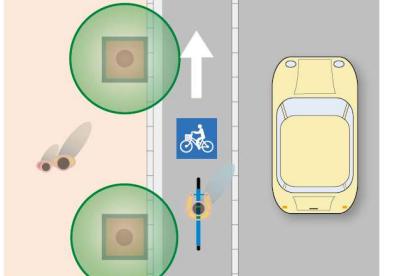
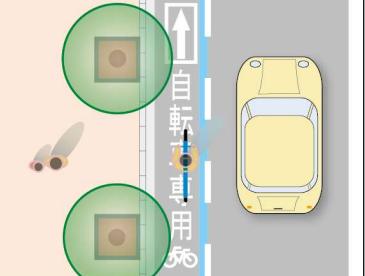
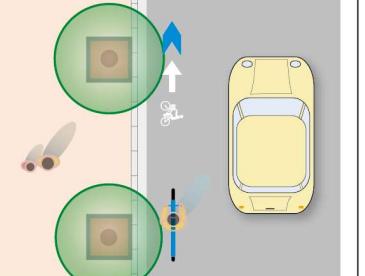
※割合欄は小数点以下を四捨五入しているため、その合計は必ずしも 100%とは限りません。(以降も同じ)

資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

事故起こし あわてる前の 自転車保険

令和3年度標語コンクール 一般の部 最優秀作品

■基本的な整備形態

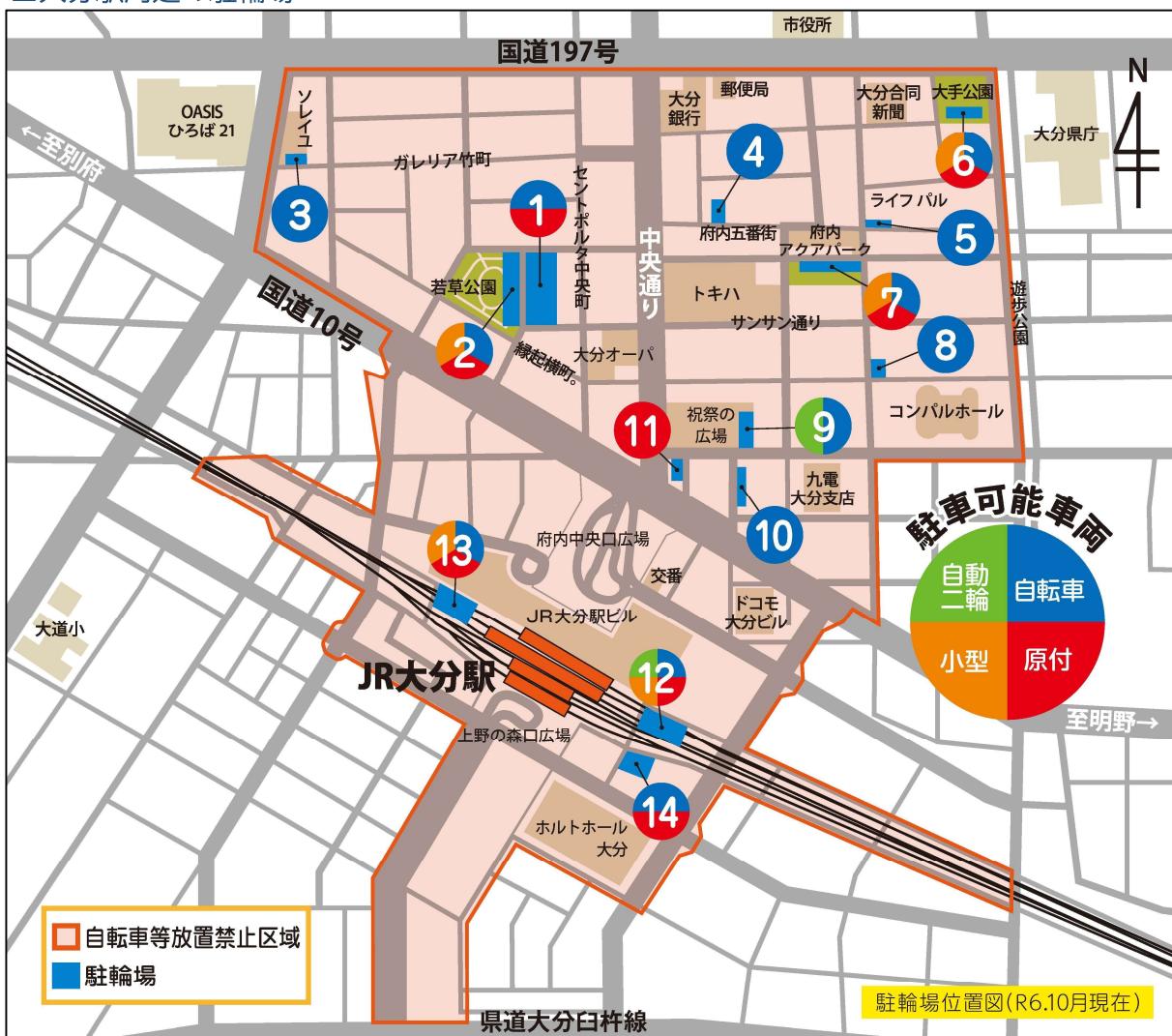
自転車道	自転車専用通行帯 (自転車レーン)	車道混在 (自転車誘導サイン)
写真	写真	写真
		
資料：第1回 安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会配布資料（国土交通省）	資料：旧鹿沼街道（宇都宮市）	資料：市道 賀来2号線（大分市）
断面図	断面図	断面図
		
平面図	平面図	平面図
		
特徴	特徴	特徴
<ul style="list-style-type: none"> 幅員は 2.0m 以上（やむを得ない場合は 1.5m 以上）。 縁石や柵などの構造物によって物理的に分離。 一方通行が基本だが、条件によっては暫定的に双方向通行を適用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅員は 1.5m 以上（やむを得ない場合は 1.0m 以上）。 自転車専用通行帯の破線付近に青い線を表示する、または通行帯全体を青く塗る方法がある。 一方通行。 	<ul style="list-style-type: none"> 車道内に自転車の通行位置を示す矢羽根型路面表示やピクトグラムを表示する。 左側通行。

※自転車歩行者道について、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(I -19)」(令和 6 年 6 月、国土交通省・警察庁)によれば、「やむを得ず自転車通行空間として歩道のみを活用せざるを得ない場合には、その区間を自転車ネットワーク路線からはずし、自転車ネットワークを補完する経路として活用することを検討するものとする。」とされています。

2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり

市内中心部の府内町1丁目駐輪場の整備や、西大分駅前広場整備に伴う駐輪場の整備、高城駅や大在駅の駐輪場の拡充を進めてきましたほか、附置義務による民間駐輪場の確保や放置禁止区域を拡大するなど放置自転車対策に努めてきました。

■大分駅周辺の駐輪場



[参考] 大分市自転車駐車場条例

- 自 車：道路交通法(昭和 35 年法律第 105 号)第 2 条第 1 項第 11 号の 2 に規定する自転車。
- 原 付：道路交通法第 2 条第 1 項第 10 号に規定する原動機付自転車。
- 小 型：道路交通法施行規則(昭和 35 年総理府令第 60 号)第 2 条の表に規定する普通自動二輪車(側車付きのものを除く。)で総排気量が 0.125 リットル以下のもの及び定格出力が 1 キロワット以下のもの。
- 自動二輪：普通自動二輪車で総排気量が 0.125 リットルを超えるもの及び定格出力が 1 キロワットを超えるもの並びに道路交通法施行規則第 2 条の表に規定する大型自動二輪車(側車付きのものを除く。)。

忘れない ライト鍵かけ ヘルメット

令和 3 年度標語コンクール ヘルメットの部 特別賞作品

■大分駅周辺の駐輪場リスト

No.	名称	収容台数				自動二輪車料金
		自転車	原動機付 自転車	小型自動 二輪車	自動 二輪車	
1	中央町地下駐輪場	920	82	0	0	-
2	若草公園地下駐輪場	293	66	0	0	-
3	竹町西駐輪場	13	0	0	0	-
4	府内五番街駐輪場	51	0	0	0	-
5	ライフパル駐輪場	10	0	0	0	-
6	大手公園駐輪場	81	9	0	0	-
7	府内アクアパーク 地下駐輪場	261	38	0	0	-
8	府内町1丁目駐輪場	21	0	0	0	-
9	祝祭の広場駐輪場	87	0	4	最初の1時間は無料、 以降1時間ごとに100円 (ただし、駐輪後24時間 の最大料金400円)	
10	金池町駐輪場	83	0	0	0	-
11	大分駅前東駐輪場	0	35	0	0	-
12	大分駅高架下東駐輪場	768	59	8	最初の1時間は無料、 以降1時間ごとに100円 (ただし、駐輪後24時間 の最大料金400円)	
13	大分駅高架下西駐輪場	679	78	0	0	-
14	大分駅南口駐輪場	478	73	0	0	-
合計		3,745	440	12		

■その他の駅周辺の駐輪場リスト

No.	名称	収容台数				自動二輪車料金
		自転車	原動機付 自転車	小型自動 二輪車	自動 二輪車	
1	西大分駅駐輪場	61	5	0	0	-
2	牧駅駐輪場	300	20	0	0	-
3	高城駅駐輪場	332		0	0	-
4	高城駅南駐輪場	195	24	0	0	-
5	鶴崎駅駐輪場(駅前)	246	0	0	0	-
	鶴崎駅駐輪場(駅東)	450	48	0	0	-
6	大在駅駐輪場	624		0	0	-
7	大在駅南駐輪場	90	12	0	0	-
8	坂ノ市駅駐輪場	406	20	0	0	-
9	敷戸駅駐輪場	80		0	0	-
10	大分大学前駅駐輪場	150		0	0	-
11	賀来駅駐輪場	120	15	0	0	-
12	豊後国分駅駐輪場	79	18	0	0	-
合計		3,295		0	0	

3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり

市民の移動手段の選択肢を増やすことにより、利便性の向上や公共交通の補完、環境負荷の軽減、自転車の利用促進を図ることを目的として、シェアサイクル、レンタサイクル、サイクルアンドバスライドに取り組んでいます。いずれの事業についても一定の利用者がいることから、認知度の向上により、さらなる利用拡大が期待されます。

○バスが利用しやすくなるバス停付近の駐輪場の整備

■重要度

重要度	票数	割合
重要	147	31%
やや重要	152	32%
普通	98	21%
あまり重要でない	55	12%
重要でない	21	4%
わからない	42	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	10	3%
やや満足	15	5%
普通	170	52%
やや不満	61	19%
不満	71	22%
わからない	156	-

○シェアサイクルの普及促進

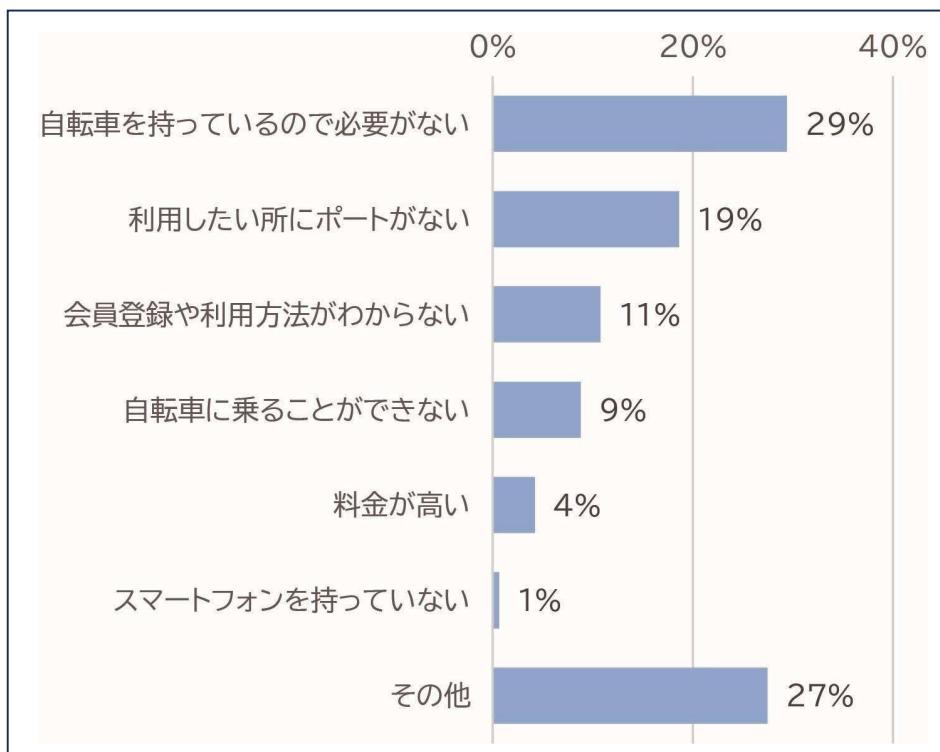
■重要度

重要度	票数	割合
重要	61	14%
やや重要	93	22%
普通	169	39%
あまり重要でない	77	18%
重要でない	31	7%
わからない	84	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	9	3%
やや満足	25	9%
普通	202	70%
やや不満	31	11%
不満	23	8%
わからない	189	-

○「おおいたサイクルシェア」を知っているが、利用していない主な理由

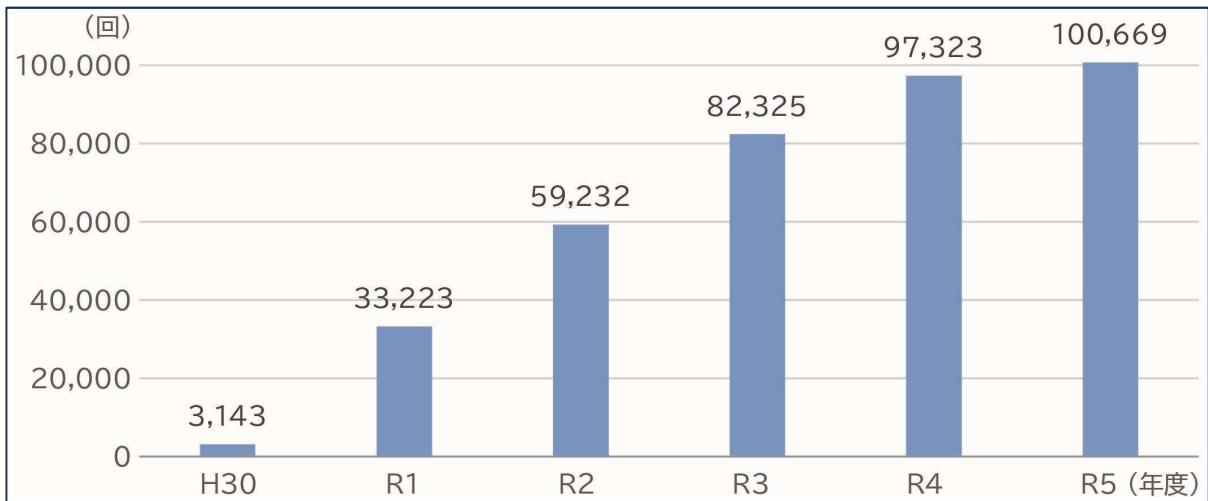


資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

平成30年10月1日からシェアサイクルの実証実験を実施しています。利用回数は年々増加しており、令和5年度には10万回を超えていきます。

ポート設置については、シェアサイクルの利用状況を踏まえて設置位置の見直しを行う等、利用者の利便性を高める取組を行っています。

■シェアサイクルの年度別利用回数



■シェアサイクルポート(ひばり公園交差点)



■シェアサイクルポート(西大分駅)



保険加入 自転車ライフの ニューノーマル

令和3年度標語コンクール 保険の部 特別賞作品

目標2 自転車で 心と体が元気になるまち おおいた

健康

4. 情報発信等による自転車利用の促進

自転車の利用促進や自転車ルール・マナーの向上等を目的に「自転車」をテーマとした標語コンクールの開催、生活習慣病の予防や健康の保持増進につながる自転車を活用した健康づくりに関する教室のほか、運転免許を自主返納した高齢者が電動アシスト自転車等の交通用具を購入する際の奨励金を支給しました。また、そのメリットを実体験してもらうため市民や企業へ電動アシスト自転車の貸出しを行ったほか、企業に対しては健康経営の推進を図るため、自転車通勤・利用促進のためのパンフレットを作成し、配布しました。

○自転車の利用によるさまざまなメリットの情報発信

■重要度

重要度	票数	割合
重要	108	22%
やや重要	142	30%
普通	161	33%
あまり重要でない	49	10%
重要でない	21	4%
わからない	38	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	7	2%
やや満足	31	9%
普通	256	72%
やや不満	44	12%
不満	19	5%
わからない	128	-

資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

5. サイクルスポーツの普及促進

平成26年から実施している「OITAサイクルフェス」は、コロナ禍により来場者数は一時減ったものの、令和6年度は46,907人と回復傾向です。また、同大会のYouTube動画配信の総再生回数も令和6年11月現在で4万3千回を超えていました。その他にも、スポーツが生活に溶け込んだ、活気のあるまちづくりを進めるホームタウン推進事業によりプロサイクルスポーツチームである「Sparkle Oita Racing Team（スパークルおおいた）」と連携し、市民のサイクルスポーツ振興を推進しました。

○OITAサイクルフェス等の自転車イベントの実施

■重要度

重要度	票数	割合
重要	44	10%
やや重要	65	15%
普通	184	42%
あまり重要でない	87	20%
重要でない	53	12%
わからない	85	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	14	5%
やや満足	28	10%
普通	217	75%
やや不満	17	6%
不満	14	5%
わからない	195	-

資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた

観光

6. 自転車を活かした観光・地域振興の推進

自転車マップをはじめとしたリーフレットやメディア広告、ホームページなど、さまざまな媒体を活用して広く観光情報を発信するとともに、道の駅たのうららへのサイクルステーションの設置等の観光振興につながる自転車利用環境の充実に取り組んでいます。

■自転車施設案内サイン



○自転車で観光しやすい環境の充実

■重要度

重要度	票数	割合
重要	140	29%
やや重要	165	34%
普通	122	25%
あまり重要でない	33	7%
重要でない	19	4%
わからない	39	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	10	3%
やや満足	33	9%
普通	192	55%
やや不満	65	19%
不満	48	14%
わからない	137	-

資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

7. サイクルツーリズムの推進

「Sparkle Oita Racing Team(スパークルおおいた)」の運営会社である3SEEDS株式会社が実施主体となり、周辺市町と連携したサイクリング大会の開催や、各地区の観光資源を活かし、自転車利用者のサイクリング経験にあわせたサイクリングルートの選定などに取り組んできました。

今後も引き続き、民間事業者や周辺市町と連携した回遊型観光に寄与する継続的な取組が求められています。

ヘルメット ルールをまもって しゅっぱつだ

令和4年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品

目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた

思い
やり

<安全・安心>

8. 安全な自転車等の普及促進

小中学生を対象とした「おでかけ自転車マナーアップ教室」や一般・高齢者向けの「自転車安全利用講習会」などを通じてBAAマーク・SGマーク等の安全に適合した自転車の購入や自転車保険の加入、点検整備の促進に努めました。

自転車利用者が事故に遭わない・起こさないための取組や、万が一の事故に備える取組について、今後も継続して取り組む必要があります。

9. 自転車ルール・マナーの啓発

自転車の基本的なルールである「自転車安全利用五則」をチラシやホームページなどさまざまな媒体により周知しているほか、街頭啓発活動や自転車教室などを通じて、小中高校生や子育て世帯、高齢者など各世代に対し、ヘルメットの着用や左側通行等の自転車ルール・マナーを呼び掛けるなど、警察や関係機関等と連携して自転車の安全利用の啓発に取り組んでおり、今後も継続して取り組む必要があります。

○自転車のルール・マナーの啓発

■重要度

重要度	票数	割合
重要	354	70%
やや重要	84	17%
普通	61	12%
あまり重要でない	4	1%
重要でない	1	0%
わからない	15	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	25	6%
やや満足	24	6%
普通	188	44%
やや不満	87	21%
不満	99	23%
わからない	63	-

○ヘルメットの着用促進に向けた取組の実施

■重要度

重要度	票数	割合
重要	290	58%
やや重要	125	25%
普通	75	15%
あまり重要でない	6	1%
重要でない	8	2%
わからない	17	-

■満足度

満足度	票数	割合
満足	24	6%
やや満足	39	10%
普通	217	55%
やや不満	61	15%
不満	56	14%
わからない	89	-

資料:「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」調査結果

10. 災害時の自転車活用方策の検討

災害発生時の移動手段の備えとして、保管期間が経過した放置自転車をストックするほか、シェアサイクルの運営事業者である(株)ドコモ・バイクシェアとシェアサイクルの災害時の使用に関する協定を締結しています。

おもいやり 車も人も 自転車も
令和4年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品